

Kretschmer 説に基づく体型と 気質に関する調査報告

市 川 民 慈 子

I 緒 言

体質学的類型論の代表的なものの一つは精神医学者 Ernst Kretschmer の類型論である。彼は体型を分類すると共に更に気質との関係をも論じ、性格類型と体格類型との間の相互関係を多数の統計的観察から結論づけて、斯学に画期的な影響を与えた。^{(1) (2)}

述者はさきに体質分類検査を Sigaud 氏法により又性格類型検査は Jung の学説に従つて、一つの実態調査の試みを行つたが、⁽³⁾ 今回は体育講義登録学生 128 名に対して、各個人が真面目な自己の反省と綿密なる観察を行い、或る結論をえて将来への方針を見出させたい体育衛生上の目的をもつて、各自の体型と気質との実態を Kretschmer 説に基づいて主観的、客観的、直観的立場から総合的に把握を試み調査票を作成したので、その結果を報告する次第である。

II 調 査 方 法

(1) 調 査 人 員 の 構 成

1959 年度前期の体育講義登録学生 128 名に関する人員構成は次の如くである。

(i) 7月1日現在の年齢区分

満 年 令 (才)	人 員 (名)
2 1	1
2 0	2 5
1 9	1 0 2
合 計	1 2 8

(ii) 学部及び学科別区分

文 学 部	英 文 学 科	4 8 名 (二学年の半数)
	家 政 学 科	5 0 名 (二学年の全員)
	社 会 学 科	1 名
音 楽 学 部		2 9 名 (二学年の全員)

(2) 体 型 分 類 検 査

Kretschmer は正常なる体型を細長型、斗士型、肥満型の三型に分け、別に發育不全型なる特殊型をもうけた。しかし後者は粗大な内分泌異常等に基づく型成不全であるから一応問題から除外しうる。

各類型の特徴は次の如くである。⁽¹⁾⁽²⁾⁽⁴⁾⁽⁵⁾

(i) 細長型 (leptomer Typus)

細くてやせている弱々しい型である。即ち縦の發育が横の発達よりも良く、胸廓は細長く扁平で肋骨角は鋭角を示し胸囲は狭ましく、頸も四肢も細長い。骨、筋肉、皮膚は全く華奢で薄く肉づきが貧弱で皮下脂肪の沈着は不良である。頭は小さく面長か丸顔で下顎骨は小さい。鼻すじは長く鋭く通っており、高頬骨で顔は中部の發育が強い。顔色は多くは蒼白で頭髪や眉毛の發育は良い。

(ii) 斗士型 (athletischer Typus)

骨格が強大で全般的に均整のとれた發育を示す型である。即ち骨格がどつし

りとして肩巾が広く胸部の発達も良く下腹部から腰にかけて狭くしまり四肢は太く手足の末端は頑丈である。皮膚は光沢よく筋肉は弾力性に富み發育良好、脂肪沈着は少ない。顔の形は細長い卵形に近く顔の骨の輪廓が強く現われている。

(iii) 肥満型 (pyknischer Typus)

丸つこいずんぐりとした栄養の良い型である。即ち手足は短く巾広だが骨格は華奢で筋肉は柔弱で脂肪沈着があり皮膚は薄く頭髮は禿げやすい。他方髯や身体の毛の發育は均一して豊かである。身体縦よりも横の發育が良く、頭囲、胸囲、腹囲が大きい。頭の頂は平たく後頭部は恰好の良い彎曲をなしている。顔はやわらかく巾広く丸さがあり、中庸の調和のある割合を示し各部分の個々の形もよい出来栄であり、横顔も肥満した鼻をもつて柔らかにゆるやかに曲つている。顔の正面の形は平たい五角形あるいは巾の広い楕形をしている。

体型は年令、性別、栄養状態、民族、環境によって差異が少なくなく、その判定も困難なことが多い。Kretschmer は正確を期するためには身体計測を用いているが、その最後の判定には直観的主観的判断にまたねばならない。

(3) 性格類型検査

Kretschmer の性格論は精神病に基づいて更に一般人に広げたものである。即ち躁鬱病、精神分裂病の家系やその病者の病前の性格にはある一定の特徴を有する性格のある事を認めた。これらの精神病の遺伝素質が一定の性格傾向を示すと考えてよい。例えば躁鬱病の遺伝圏には社交的、調和的、實際的な性格を持つ者が多く humor がある。精神分裂病の遺伝圏には非社交的、矛盾的、観念的な性格をもつ者が多く Satire がある。以上の性格傾向が極端となって病的となる。故に性格傾向と精神病との間には絶対的な限界がなく移行があると考え、躁鬱病、分裂病の遺伝圏にある性格傾向を躁鬱性気質、分裂性気質と名づけた。尚気質という名称を用いたのは、それが生物学的基礎にもとづく感情の面を特に表わしているからである。彼は後に斗士型と親和的な気質として粘着気質を発見しているが、今回はこれにはふれない。従つて人間は大体下

記の六つの主要気質に関係があるといえる。

① 軽躁性

爽快、活潑、（おこりつばい気軽な気分）

② 中庸気分

实际的現実家、快適なる諧謔家

③ 重鬱性

お人よし、柔和

④ 過敏性

傷つきやすい内面的人間、刺戟されやすい、神経質、理想家

⑤ 分裂性中間状態

冷たい精力家、組織的、首尾一貫的、冷静な貴族主義

⑥ 鈍感性

冷酷、冷やかな神経質、偏屈、奇人、遅鈍、情動麻痺、愚鈍な懶け者

以上のうち①、②、③は躁鬱性気質者であり④、⑤、⑥は分裂性気質者をあらわす。人間の気質はたとえ精神病理的特質をもたづとも躁鬱性、分裂性、内至は移行混合性の何れかにぞくするはずである。

Kretschmer の類型論にも批判はなされているだろうが、今回は以上の方式に従って、文献記載事実に忠実に 128 名に関する調査票を作成した。

Ⅲ 調 査 成 績

(1) 学科別に観察した成績

128 名の実態について整理の都合上英文学科生、家政学科生、社会学科生、音楽学部生の科別に観察した結果を先づ述べる。

(f) 英文学科生 48名

(i) 体型

細長型18名、斗士型5名、肥満型8名、混合型17名の分布状態は細長—斗士型5名、斗士—細長型2名、細長—肥満型3名、斗士—肥満型5名、肥満—斗士型1名、細長—斗士—肥満型1名である。従って細長型が最も多く次で混合

型、肥満型、斗士型の順を示す。

(ii) 気質

躁鬱性気質者22名、その内訳は軽躁性1名、中庸気分12名、重鬱性1名、軽躁—中庸気分7名、中庸気分—重鬱性1名である。

分裂性気質者8名の内訳は過敏性5名、分裂性中間状態1名、過敏—分裂性中間状態1名、分裂性中間状態—鈍感性1名である。

混合性気質者18名の内訳は軽躁—過敏性5名、過敏—軽躁性1名、中庸気分—過敏性6名、重鬱—過敏性2名、軽躁—重鬱—過敏性1名、過敏—分裂性中間状態—軽躁性1名、過敏—分裂性中間状態—中庸気分1名、過敏—分裂性中間状態—鈍感性1名である。従つて躁鬱性気質者が最も多くしかも中庸気分の者が12名を占めている。次で混合性気質者、分裂性気質者の順である。

(iii) 体型と気質との関係

第1表の如くである。気質の表現方法は混合性気質には番号を附する。例えば①—④は軽躁性—過敏性の略であり、原則として前項におくものから順に気質の重点がおかれる。

第1表 英文学科生48名についての体型と気質との実態

体 型 気 質		混 合 型			人 員 合 計			
		細長型	斗士型	肥満型	細長— 斗士型	細長— 肥満型	斗士— 肥満型	細長— 斗士— 肥満型
躁 鬱 性	①軽 躁 性	1	0	0	0	0	0	1
	②中 庸 気 分	6	1	2	1	1	1	12
	③重 鬱 性	0	0	0	0	1	0	1
	① — ②	2	2	0	2	0	1	7
	② — ③	1	0	0	0	0	0	1
分 裂 性	④過 敏 性	3	0	1	0	0	1	5
	⑤分裂性中間状態	0	0	0	0	0	1	1
	⑥鈍 感 性	0	0	0	0	0	0	0
	④ — ⑤	0	1	0	0	0	0	1
	⑤ — ⑥	1	0	0	0	0	0	1

混合性	① — ④	2	0	2	1	0	0	1	6
	② — ④	0	1	1	1	1	2	0	6
	③ — ④	1	0	0	1	0	0	0	2
	① — ③ — ④	0	0	1	0	0	0	0	1
	④ — ⑤ — ①	0	0	1	0	0	0	0	1
	④ — ⑤ — ②	1	0	0	0	0	0	0	1
	④ — ⑤ — ⑥ — ②	0	0	0	1	0	0	0	1
人 員 合 計		18	5	8	7	3	6	1	48

(p) 家政学科生 50名

(i) 体型

細長型11名の22%、斗士型4名の8%、肥満型6名の12%、混合型は最も多くて29名の58%、その内訳は細長—斗士型8名、細長—肥満型3名、肥満—細長型4名、斗士—肥満型8名、肥満—斗士型2名、細長—斗士—肥満型4名である。

(ii) 気質

躁鬱性気質者7名の14%、その内訳は中庸気分4名、軽躁—中庸気分2名、中庸気分—重鬱性1名である。

分裂性気質者15名の30%、その内訳は過敏性8名、過敏—分裂性中間状態4名、過敏—鈍感性1名、分裂性中間状態—鈍感性1名、過敏—分裂性中間状態—鈍感性1名である。

混合性気質者は最も多く28名の56%をしめ、その内訳は軽躁—過敏性3名、中庸気分—過敏性13名、重鬱—過敏性4名、中庸性分—分裂性中間状態2名、軽躁—中庸気分—過敏性3名、軽躁—中庸気分—分裂性中間状態1名、軽躁—重鬱—過敏性1名、中庸気分—重鬱性—分裂性中間状態1名である。

(iii) 体型と気質との関係

第2表の如くである。

第2表 家政学科生50名についての体型と気質との実態

体 型 気 質		細長型	斗士型	肥満型	混 合 型				人員 合計	%
					細長— 斗士型	細長— 肥満型	斗士— 肥満型	細長— 斗士— 肥満型		
躁 鬱 性	②中庸気分	0	2	0	0	1	1	0	4	14
	①—②	0	0	1	0	0	1	0	2	
	②—③	1	0	0	0	0	0	0	1	
分 裂 性	④過敏性	5	0	2	1	0	0	0	8	30
	④—⑤	1	0	1	1	0	0	1	4	
	④—⑥	0	0	0	0	1	0	0	1	
	⑤—⑥	0	0	1	0	0	0	0	1	
	④—⑤—⑥	0	0	0	0	0	1	0	1	
混 合 性	①—④	1	0	0	1	0	1	0	3	56
	②—④	1	1	0	4	3	2	2	13	
	③—④	1	1	1	0	0	1	0	4	
	②—⑤	0	0	0	0	0	1	1	2	
	①—②—④	0	0	0	0	1	2	0	3	
	①—②—⑤	0	0	0	0	1	0	0	1	
	①—③—④	1	0	0	0	0	0	0	1	
	②—③—⑤	0	0	0	1	0	0	0	1	
人 員 合 計		11	4	6	8	7	10	4	50	／
%		22	8	12	5 8				／	100

(ㄥ) 社会学科生 1 名

(i) 体型

細長—肥満型を示す混合型。

(ii) 気質

分裂性気質の過敏性を示す。

(ㄷ) 音楽学部生 29名

(i) 体型

細長型9名の31.04%、斗士型3名の10.34%、肥満型5名の17.24%、
混合型は最も多くて12名の41.38%、その内訳は細長—斗士型4名、細長—肥
満型2名、斗士—肥満型4名、肥満—斗士型1名、細長—斗士—肥満型1名で

ある。

(ii) 気質

躁鬱性気質者 9 名の 31.03 %、その内訳は軽躁性 1 名、中庸気質 6 名、軽躁—中庸気質 2 名である。

分裂性気質者 7 名の 24.14 %、その内訳は過敏性 5 名、分裂性中間状態 1 名、過敏—鈍感性 1 名である。

混合性気質者は最も多く 13 名の 44.83 %をしめ、その内訳は軽躁—過敏性 1 名、過敏—軽躁性 1 名、中庸気分—過敏性 4 名、軽躁—中庸気分—過敏性 2 名、軽躁—重鬱—過敏性 1 名、軽躁—中庸気分—重鬱—過敏性 1 名、軽躁—中庸気分—過敏—分裂性中間状態 1 名、過敏—鈍感—重鬱性 1 名、中庸気分—重鬱—過敏—鈍感性 1 名である。

(iii) 体型と気質との関係

第 3 表の如くである。

第 3 表 音楽学部生 29 名についての体型と気質との実態

気 質	体 型	混 合 型							人 員 合 計	%
		細長型	斗士型	肥満型	異長— 斗士型	細長— 肥満型	斗士— 肥満型	細長— 斗士— 肥満型		
躁 鬱 性	①軽 躁 性	1	0	0	0	0	0	0	1	31.03
	②中 庸 気 分	1	0	1	2	0	2	0	6	
	①—②	2	0	0	0	0	0	0	2	
分 裂 性	④過 敏 性	2	1	2	0	0	0	0	5	24.14
	⑤分裂性中間状態	0	0	0	0	0	1	0	1	
	④—⑤	0	0	0	0	0	1	0	1	
混 合 性	①—④	1	0	0	0	0	0	0	2	44.83
	②—④	1	1	1	1	1	0	0	4	
	①—②—④	0	1	0	0	0	0	1	2	
	①—③—④	0	0	0	0	0	1	0	1	
	①—②—③—④	0	0	0	1	0	0	0	1	
	①—②—④—⑤	1	0	0	0	0	0	0	1	
	④—⑥—③	0	0	1	0	0	0	0	1	
	②—③—④—⑥	0	0	0	0	1	0	0	1	
人 員 合 計		9	3	5	4	2	5	1	29	／
%		31.04	10.34	17.24	41.38				／	100

(2) 調査全員に関する成績

128 名についての体型と気質との実態は第 4 表の如くである。

第 4 表 128 名についての体型と気質との実態

気 質	体 型	混 合 型							人員 合計	%
		細長型	斗士型	肥満型	細長— 斗士型	細長— 肥満型	斗士— 肥満型	細長— 斗士— 肥満型		
躁 鬱 性	①軽 躁 性	2	0	0	0	0	0	0	2	26.69
	②中 庸 気 分	7	3	3	3	2	4	0	22	
	③重 鬱 性	0	0	0	0	1	0	0	1	
	① — ②	4	2	1	2	0	2	0	11	
	② — ③	2	0	0	0	0	0	0	2	
分 裂 性	④過 敏 性	10	1	5	1	1	1	0	19	24.22
	⑤分裂性中間状態	0	0	0	0	0	2	0	2	
	⑥鈍 感 性	0	0	0	0	0	0	0	0	
	④ — ⑤	1	1	1	1	0	0	1	5	
	④ — ⑥	0	0	0	0	1	1	0	2	
	⑤ — ⑥	1	0	0	0	0	0	0	2	
	④ — ⑤ — ⑥	0	0	0	0	0	1	0	1	
混 合 性	① — ④	4	0	2	3	0	1	1	11	46.09
	② — ④	2	3	2	5	5	4	2	23	
	③ — ④	2	1	1	1	0	1	0	6	
	② — ⑤	0	0	0	0	0	1	1	2	
	① — ② — ④	0	1	0	0	1	2	1	5	
	① — ② — ⑤	0	0	0	0	1	0	0	1	
	① — ③ — ④	1	0	1	0	0	1	0	3	
	② — ③ — ⑤	0	0	0	1	0	0	0	1	
	① — ② — ③ — ④	0	0	0	1	0	0	0	1	
	① — ② — ④ — ⑤	1	0	0	0	0	0	0	1	
	② — ③ — ④ — ⑤	0	0	0	0	1	0	0	1	
	④ — ⑤ — ①	0	0	1	0	0	0	0	1	
	④ — ⑤ — ②	1	0	0	0	0	0	0	1	
	④ — ⑥ — ③	0	0	1	0	0	0	0	1	
	④ — ⑤ — ⑥ — ②	0	0	0	1	0	0	0	1	
人 員 合 計		38	12	19	19	13	21	6	128	／
%		29.69	9.38	14.84	46.09				／	100

(i) 体型

細長型38名の 29.69 %、斗士型12名の 9.38 %、肥満型 19名の 14.84 %、混合型59名の 46.09 %である。

分布状態は細長型の要素を主体とする混合型が最も多く、純粋なものでは細長型が多い。又女子においては斗士型が比較的少ないとの説を肯定する。

これらの体型は精神運動性においては根本的な、しかも実際の職業的目的にとつても重要な相違が見出される。⁽²⁾例えば手や指の動きの精緻で正確であることは細長型が優れ肥満型が之に次ぎ斗士型が劣る。これに対して全身運動の協調性に於ては肥満型は細長型や斗士型よりやわらかで丸味を帯びた滑かな遮断のない運動によつて明らかに優れている。斗士型は細長型に近いかと比較してやや弱められた精神及応のしかたを示すが粘着性は強い。

(ii) 気質

躁鬱性気質者は38名の 29.69 %、分裂性気質者は31名の 24.22 %、混合性気質者は最も多くて59名の 46.09 %である。

尚混合性気質者の内訳は中庸気分と過敏性の混合が最も多くて23名、次で軽躁性と過敏性の混合が11名、重鬱性と過敏性の混合が6名、軽躁性と中庸気分と過敏性との混合が5名の順を示めし、大部分の者は躁鬱性と分裂性の両傾向をほどよくそなえている事がうかがわれる。

以上の状態を把握したが、これらの性格類型は個人の生活態度の特徴はいう迄もなく、社会的にもある影響を与えるものであり例えば詩人、研究家、指導者とそれらの作品、業績等の示す傾向は興味ある事実を如実に物語っている。

(iii) 体型と気質との関係

第4表から更らに一覧表をつくと次表の如くである。

第5表 128名についての体型と気質との関係

体 型 気 質	細長型	斗士型	肥満型	混合型	合 計 (名)	%
躁 鬱 性	15	5	4	14	38	29.69
分 裂 性	12	2	7	10	31	24.22
混 合 性	11	5	8	35	59	46.09
合 計 (名)	38	12	19	59	128	／
%	29.69	9.38	14.84	46.09	／	100

細長型38名の内訳は躁鬱性気質者15名、分裂性気質者12名、混合性気質者11名である。今回の調査においては細長型でも躁鬱性気質者が少し多い事を示している。

斗士型12名においては躁鬱性気質者5名、分裂性気質者2名、混合型気質者5名である。

肥満型19名においては躁鬱性気質者4名、分裂性気質者7名、混合性気質者8名である。

本体型においては一般に躁鬱性気質者の分布率が高いといわれるが今回の調査成績では分裂性気質者が少し多い。

混合体型59名においては躁鬱性気質者14名、分裂性気質者10名、混合性気質者35名である。以上の成績の結果は Kretschmer 説の如き特定関係にあてはまらない。即ち彼は体型と病名の関係を示して躁鬱病は肥満型 64.6 %、細長型 19.2 %、斗士型 6.9 %位に出現し、之に反して分裂病は細長型 50.3 %、斗士型 16.9 %、肥満型 13.7 %位に出現すると強調している。

IV 結 論

神戸女学院大学生 128 名の Kretschmer 説に基づく体型と体質とに関する実態成績は次の如くである。

1. 体 型

混合型59名の 46.09 %が最も多く次で細長型38名の 29.69 %、肥満型19名

の 14.84 %、斗士型12名の 9.38 %の順である。

2. 気 質

混合性気質者 59名の 46.09 % が最も多く次で躁鬱性気質者 38名の 29.69 %、分裂性気質者31名の 24.22 %の順である。

3. 体型と気質との関係

細長型38名に於ては躁鬱性気質者15名、分裂性気質者12名、混合性気質者 11名である。

斗士型12名に於ては躁鬱性気質者 5 名、分裂性気質者 2 名、混合性気質者 5 名である。

肥満型19名に於ては躁鬱性気質者 4 名、分裂性気質者 7 名、混合性気質者 8 名である。

混合型59名に於ては躁鬱性気質者14名、分裂性気質者10名、混合型気質者35 名である。

本調査成績では混合型で混合性気質者が最も多い。尚純粋体型と気質との実態は Kretschmer 説の特定関係を肯定しない。

4. 学科別による実態

英文学科生48名では細長型が最も多くて18名、次で混合型17名、肥満型 8 名、斗士型 5 名の順である。

気質は躁鬱性気質者が最も多くて22名、混合性気質者18名、分裂性気質者は最も少なく 8 名である。

家政学科生50名では混合型最も多く29名の58%、次で細長型11名の22%、斗士型 4 名の 8 %、肥満型 6 名の12%である。

気質は混合性気質者最も多く28名の56%、次で分裂性気質者15名の30%、躁鬱性気質者 7 名の14%である。

社会学科生 1 名は混合型で分裂性気質である。

音楽学部生 29 名では混合型最も多く 12 名の 41.38 %、次で細長型 9 名の 31.04 %、肥満型 5 名の 17.24 %、斗士型 3 名の 10.34 %である。

気質は混合性気質者 最も多く 13 名の 44.83 %、次で躁鬱性気質者 9 名の 31.03 %、分裂性気質者 7 名の 24.14 % の順である。

志望学科目と気質との間には興味ある傾向がうかがわれる。

V 献 文

1. E. Kretschmer

Körperbau und Charakter. 20 Aufl. (1950)

2. Kretschmer 著、正木正訳

医学心理学 頁 217—230 (1953)

3. 市川民慈子

性格類型と正常体質分類についての調査報告。神戸女学院大学論集第 5 巻
第 2 号 (1958)

4. 中田 修

「性格学」精神身体医学講座 I. 頁 179—190 (1957)

5. 松井三雄、水野忠文、江橋慎四郎

体育測定法。頁 64—65 (1957)

Ichikawa, Tamiji

Report on the Relationship Between Constitution Patterns and Character Patterns

(Based on Kretschmer Theory)

Résumé

I investigated, according to the Kretschmer Theory, the substance of constitution patterns and character patterns with 128 students registered for the Physical Education (Theory) course in the first semester of 1959.

I present here a report on the outcome of questionnaire made with an attempt to grasp the substance synthetically from subjective, objective and intuitive standpoint.